



しーるを はる
えんぴつで ぬる

授業づくりの工程

- 前題材までに到達している実態を把握
- 子どもに望む姿を想定
- 指導内容の決定 (研究生産物を基に)
- 学習指導要領の指導内容から段階を決定
- 教材の設定
- 題材設定の立場記述
- 題材計画構想
- 授業構想シートを活用
- 本時案作成
- 題材開始
- R研で毎時間の授業の評価・改善
- 題材終了
- 観点別評価の実施

実践事例

指導内容：【領域】読むこと 小学部2段階 知・技 ア(イ) 思・判・表 Cウ 学びウ
教材と仕組み：『作ってみよう!』で、おもちゃの作り方カードに記されたひらがなを読んで行動しよう

題材目標

知・技：『ひらがなプリント』のひらがなを読むとき、名詞と動詞で記された二語文の意味がわかり、「はさみで切る」、「おりがみをはる」、「ペンでかく」、「ペンでぬる」の行動をする。
思・判・表：『作ってみよう!』で、作り方カードを見ておもちゃを作るとき、カードに記されているひらがなを読み、必要な道具を取り、それを使って工作をして、カードのとおりにおもちゃを作ることができる。
学び：自分から進んで、ひらがなで記された二語文のことばを読み、行動で表そうとする。

評価

知・技：「はさみで切る」などの二語文を読んで、『ひらがなプリント』に読み取ったとおりに行動することができた。
思・判・表：作り方カードに記されたひらがなを読み、その道具を使って工作し、おもちゃを作ることができた。
学び：はじめはわからない行動のときに「わからない」と言う姿が見られたが、徐々に二語文のひらがなのとおりに行動する姿が見られ、繰り返し取り組むと、「できた!」と言って自分から次々と行動する姿が見られるようになった。

学習指導要領の内容から三つの柱の題材目標を決定する経緯と整合性の根拠

ポイント

目標を決めるために・・・

- ・生活の中でよく使われ、見る機会が多い (必要性)
- ・読もうとする姿が見られる (可能性)
- ・生活の中で活用できる (価値性)

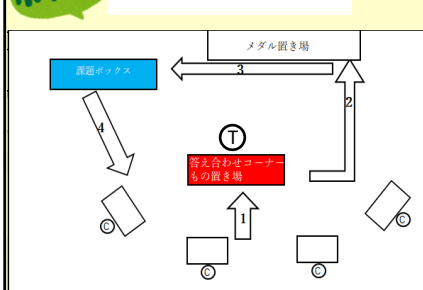
【チェックリスト】

- ・1段階は習得できている
- ・2段階の学校生活で見聞きすることばの意味を理解し、行動できるようになってほしい

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等
(イ) 日常生活でよく使われているひらがなを読むこと。	(ウ) 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気づき、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。

主体的で対話的で深い学びの実現に向けた工夫

ポイント 環境の構造化



○次の行動がわかり、自分から取り組めるように、
周回する動線を設定

ポイント 子ども同士の対話

「ぬる」って
どういうこと?
こうすることだよ
そうなんだ!

はさみで きったよ。
ペンで かいたよ。
ハンバーグが
できたよ。

○わかったことを教え合い、
互いに認め合えるように、
皆にことばの意味を教えたり、
学習の成果を披露したりする
場を設定

題材目標の決定

ポイント

は・さ・み・?

はさみ

ペン? かく?
ぬる?

なんて書いてあるの?

題材計画構想

知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の
それぞれの内容の高まりやつながりについて

ポイント

内容の高まりとつながり

知識及び技能	内容の高まり	思考力・判断力・表現力等
・扱う語彙数 ・読む対象 (問題か解答用のシールか)		・名詞と動詞の組み合わせ ・行動数
		はさみで きる のりで のり ペンで かく ペンで ぬる えんぴつで かく おりがみを はる おりがみを はる はさみで きる

つながり

- 【知・技】一つ一つのことばの意味を理解する
- 【思・判・表】知・技で学んだことを使って、作り方カードに記されたひらがなを読んで行動する

三つの柱の目標を達成するための働きかけや工夫

ポイント

「やりたい!」「できた!」と思える工夫

課題に取り組む 前の働きかけ	自分で 確かめられる教具	興味にあわせた 課題
自分から「わかりません」と伝えられるように、はじめに困ったときの対応を確認する	自分で正誤を判断できるように、表にひらがな、裏に正解のイラストが示されたカードで確かめる	ひらがなを読みたい!と思えるように、好きな食べ物やキャラクターを設定する
	きる	あか

気づき・改善 など 考察

【思・判・表での課題と題材計画について】

思考や判断の場面を設定するときに、どのような課題をどの順に設定するか十分に検討する必要があった。また、児童がつまずきやすい課題 (今回は動詞「ぬる」と「かく」の行動の違い) を知識及び技能の場面で丁寧に指導し、思・判・表の場面でそのことばが全て出題されるように課題を配列する必要があった。

→思・判・表の評価ができない状況にならないよう、知識及び技能で指導したいことばを十分に確認してから取り組むようにする。

題材計画を設定するときに、児童の実態に応じて時間をかけて指導し、その都度計画を見直すようにする。

特に動詞を読むことについては、ことばと行動が結びつくような課題と時間を設ける。

【教材について】

知識及び技能で本時の学習することばを十分に指導してから、思・判・表の活動『作ってみよう!』を行ったことで、グループ全員の意欲を活動の終わりまで持続させることができ、次々と課題に取り組む姿につなげることができたのでよかった。

